

小学六年

適性検査 D

解答と解説

1

問一	イ・エ・オ
問二	ア

問三	
オランダ	日本
23%	56%
フランス	アメリカ合衆国
30%	51%
	イギリス
	46%

問四	オ
----	---

問五	一八九〇年
	ウ
	一九二八年
	ア
	一九四六年
	イ
	二〇一六年
	エ

2

問一	ウオ
----	----

問六									
の	人	う	よ	ま	ま	投	現	【例】	
問	が	に	う	た	っ	票	代		
題	投	な	に	、	た	率	の		
点	票	る	な	今	り	が	生		
も	し	の	る	後	す	上	活		
あ	た	で	と	イ	る	が	に		
る	か	投	、	ン	と	っ	合		
。	ど	票	ど	タ	い	た	わ		
	う	率	こ	丨	っ	り	せ		
	か	は	に	ネ	た	、	た		
	が	上	い	ッ	良	選	ル		
	わ	が	て	ト	い	拳	丨		
	か	る	も	上	点	に	ル		
	ら	が	投	で	が	対	を		
	な	、	票	投	あ	す	つ		
	く	本	が	票	る	る	く		
	な	当	で	が	と	関	る		
	る	に	き	で	思	心	こ		
	な	そ	る	き	う	が	と		
	ど	の	よ	る	。	深	で		

【例】	
周	筆
り	者
で	は
不	、
正	「
が	消
進	極
行	的
し	不
て	正
い	」
る	に
こ	つ
と	い
を	て
知	、
り	自
な	分
が	の
ら	

問二	
な	グ
い	ロ
問	丨
題	バ
が	ル
山	な
積	規
し	模
て	で
い	、
る	一
現	朝
状	一
。	夕
	に
	は
	解
	決
	で
	き

20

20

120

100

20

問三

	だ	声	し	の	そ		う	不	は	何	を		と	追	そ
	と	を	、	だ	う	な	に	正	、	か	し	私	だ	及	の
	思	一	た	か	し	ぜ	し	に	一	不	て	は	と	し	不
	う	人	と	ら	て	か	た	対	人	正	い	、	述	た	正
	か	で	え	簡	い	と	い	し	で	が	な	ふ	べ	り	に
	ら	上	不	単	る	い	と	て	考	進	い	だ	て	せ	対
	で	げ	正	に	つ	う	思	ど	え	行	か	ん	い	ず	し
	す	る	に	気	も	と	い	う	ず	し	よ	の	ま	、	て
	。	の	気	づ	り	、	ま	声	に	て	く	生	す	間	反
		は	づ	け	が	「	す	を	周	い	気	活	。	接	対
350		と	け	る	な	消	。	上	り	る	を	で		的	の
	て	た	も	い	の	極		げ	の	こ	つ	自		に	声
	も	と	の	の	的			る	人	と	け	分		不	を
	勇	し	で	に	不			べ	と	に	る	が		正	上
	気	て	は	し	正			き	よ	気	だ	「		に	げ
	が	も	な	て	「			か	く	づ	け	消		加	た
	い	、	い	し	は			考	相	い	で	極		担	り
	る	反	と	ま	自			え	談	た	な	的		す	責
	こ	対	思	う	分			る	し	時	く	不		る	任
	と	の	う	も	で			よ	て	に	、	正		こ	を

- (配点)  
 ① 問一～問五……各3点 (ただし、問一は順不同・完答)  
 ① 問六……14点  
 ② 問一、問二……各5点 (ただし、問一は順不同・完答)  
 ② 問三……40点  
 計100点

## 【解説】

## 1 選挙をテーマにした問題

## 問一 B2 情報を獲得する 比較 関係づけ

【資料1】に書かれた内容を読み取り、前後に時代を分類する問題です。各文の内容からどの時代のできごとを指しているか読み取りましょう。

【資料1】から、選挙制度が始まったのは一八八九年であることがわかります。したがって、【年表】で見たとときに一八八九年よりもあとに起こったできごとを選びます。

ア アメリカ合衆国のペリーが来航したのは江戸時代の終わりの一八五三年なので、明治時代よりも前のできごとです。なお、翌年（翌年）に結ばれた条約は、日米和親条約という条約です。太平洋戦争が始まったのは昭和時代の一九四一年なので、明治時代よりもあとのできごとです。

ウ 同じ明治時代のできごとですが、富国強兵や殖産興業などの取り組みが行われたのは明治時代初期の一八七〇年代のできごとであり、選挙制度の始まりよりは前のできごとです。

エ 国際連合が結成されたのは第二次世界大戦終了後の一九四五年なので、明治時代よりもあとのできごとです。なお、日本が国際連合に加盟したのは一九五六年のできごとです。

オ 全国水平社が結成されたのは一九二三年、女性運動は一九一〇年代に始まりましたが、一九二〇年代にはさらにさかんになりました。いずれも大正時代のことなので、明治時代よりもあとのできごとです。

カ 日本にキリスト教が伝わったのは室町時代の一五四九年の

できごとなので、明治時代よりも前のできごとです。スペインの宣教師であるフランシスコ・ザビエルによって、日本にキリスト教が伝えられました。

## 問二 B1 情報を獲得する 比較 推論

【資料1】に書かれた内容を読み取り、若い世代の選挙に対する関心がうすいことを表す資料を選ぶ問題です。

ア 60歳代、40歳代、20歳代の投票率が並べられています。中でも若い世代である20歳代の投票率が最も低く、選挙に対する関心がうすいことが推測できます。

イ 日本の総人口は二〇一〇年まで増加し続け、二〇二〇年は減少していることがわかりますが、若い世代の選挙に対する関心がうすいかどうかは判断できません。

ウ 年齢別の人口は65歳以上が30%近くをしめていることがわかりますが、若い世代の選挙に対する関心がうすいかどうかは判断できません。

## 問三 B1 情報を獲得する 比較 関係づけ

【資料3】に書かれた日本、アメリカ合衆国、イギリス、オランダ、フランスそれぞれの国の第一党が全体の定数にしめる割合を計算する問題です。最も議席が多い政党である第一党は、

【資料3】から、それぞれ260議席の自由民主党（日本）、222議席の民主党（アメリカ合衆国）、298議席の保守党（イギリス）、34議席の自由民主党（オランダ）、172議席の再生（フランス）です。それぞれの国の割合の計算は、「第一党の議席数÷全体の定数×100」で求めることができます。日本は $260 \div 465 \times 100$ より約56%。

アメリカ合衆国は  $222 \div 435 \times 100$  より約 51%。  
 イギリスは  $298 \div 650 \times 100$  より約 46%。  
 オランダは  $34 \div 150 \times 100$  より約 23%。  
 フランスは  $172 \div 577 \times 100$  より約 30% となります。

問四 B2 情報を獲得する 比較 関係づけ

【資料3】に書かれた内容について書かれた文を読み、最も適切なものを選ぶ問題です。

- ア 自由民主党の議席数は260議席、立憲民主党の議席数は97議席なので、約2.7倍となり、3倍をこえていません。したがって、誤りです。
- イ アメリカ合衆国の下院では民主党と共和党の議席の差がほとんどありませんが、わずかに上回っているのは民主党です。したがって、誤りです。
- ウ 保守党と労働党を足した議席数は541議席です。定数との差は650議席から541議席を引いて109議席となり、100議席以上です。したがって、誤りです。
- エ オランダの第二党である民主66党の議席数は24議席なので、次に議席の多い政党は24議席未満となります。したがって、誤りです。
- オ フランスの第三党である不従従のフランスの議席は75議席で、第二党である国民連合の議席は89議席なのでその差は15議席以下です。第一党である再生の議席数は172議席なので、国民連合との差は80議席以上となります。したがって、正しいです。

問五 B1 情報を獲得する 比較 推論

【資料4】にあるそれぞれの年にあてはまる、選挙権を得ることのできる基準を選ぶ問題です。

原則として、選挙権を得ることのできる基準が低いほど、有権者数は増えていきます。日本は、選挙権を得ることのできる基準を、時代ごとに低くしていきました。ア～エのうち、最も基準が高いのはウで、この基準は、選挙制度が始まった一八九〇年の選挙で適用された基準です。このころは基準となる年齢に達していても、一定以上の金額の税金を納めていないと選挙権を得ることはできませんでした。税金の金額はその後徐々に緩和され、一九二八年の選挙ではアの「満25歳以上のすべての男子」となり、税金に関する基準がなくなりました。また、一九四六年の選挙ではイの「満20歳以上のすべての男女」となり、年齢が引き下げられるとともに、女性も選挙権を得られるようになりました。さらに、二〇一六年の選挙ではエの「満18歳以上のすべての男女」となり、さらに年齢が引き下げられ、有権者数が増加しました。

問六 C1 情報を獲得する 理由 具体・抽象

【資料5】・【資料6】と、ここまでの会話から、投票率が低いことが問題になっている日本において、選挙におけるルールがつくられたり、解禁されたりすることによりどのような良い点があると考えられるかを説明するとともに、インターネットによる投票が可能になったときにどのような良い点と問題点があるかを考える問題です。

【資料5】から、一九九〇年以降の投票率は上がったたり下がったりを繰り返していますが、近年は60%に達することがなく、

有権者の約40%の人が投票をしていないことから、投票率が低いことがわかります。また、【資料6】から、インターネットを用いた選挙運動が解禁されたことがわかります。ここでは、「選挙運動」が可能になったという点がポイントであり、「投票すること」が可能になったわけではないという点に注意する必要があります。

この問題では、①選挙におけるルールがつけられたり、解禁されたりすることによる良い点が書かれているかどうか、②インターネットによる投票が可能になったときの良い点が書かれているかどうか、③インターネットによる投票が可能になったときの問題点が書かれているかどうか、④①③に過不足がなく、文章の整合性に誤りがないかどうか、⑤表現や表記に誤りがないかどうかを中心に見ています。

## 2 ② 自分の意見を記述する問題

### 問一 B1 情報を獲得する 比較 関係づけ

ア 二段落目で環境問題と異常気象による大規模な自然災害が増えていることについて触れています。日本に限らず世界各地で頻繁に生じています」と書かれています。したがって、正しくありません。

イ 「逆転現象」については三段落目で出てきていますが、これは環境問題において「自然が人間に脅威を与える」とことと「テクノロジを用いる人間が自然を破壊しつつある」ことの逆転について述べたものであり、富裕層と貧困層について述べたものではありません。したがって、正しくありません。

ウ 五段落目で「自由の危機」に関する問題が取り上げられています。その最後に、「テクノロジの高度な発展は、公の場所でもインターネット上でも人々を容易かつ大規模に監視できるようにになりました」と書かれています。したがって、正しいです。

エ 最後から二行目に「不正を目にしていながら、黙っていることは共犯なのです」と書かれています。筆者は、危害を加えられている人を守ったり救ったりできる立場にあるのにそうしないことを否定的にとらえていますから、不用意に関わろうとしない方が良い、という意見にはならないはずですが、正しくありません。

オ (中略) の三行後に「積極的不正」とは何か書かれています。ここでの「積極的」とは、自分から他人に何らかの危害を加える様子を表しています。したがって、正しいです。

問二

**B1** 情報を獲得する 置き換え 関係づけ

指示語の内容を具体的に説明する問題です。「こうした現状」の後に筆者が「黙って傍観ぼうかんしているだけではありませんか」と言っていることから、「こうした現状」は少なくとも筆者にとつて好ましい状態ではないことが読み取れます。このことをふまえたうえで、指示語の指示内容ですから直前の部分を参考にしながらまとめましょう。「グローバルな規模で」「一朝一夕に解決できない」「問題が山積」という要素を盛りこんでまとめましょう。

※以下のポイントを中心に見ます。

- ① 「こうした現状」の指示内容について正しく触れているか
- ② ①の内容に過不足がないか
- ③ 表現や表記に誤りがないか

問三

**C2** 理由 置き換え 推論

文章中の「消極的不正」への対応についてあなたの意見を述べる問題です。

第一段落では、「消極的不正」とはどのようなもので、出会うためにはどのようなことが必要か、筆者の考えをまとめます。「消極的不正」がどのようなものか、ということについては、本文の（中略）後、「もうひとつは、消極的不正です」に続く部分に書かれています。この部分を参考にしてまとめましょう。第二段落では、「消極的不正」に対してどのような対応を取るかについて、あなたの考えをまとめます。具体的に、どのような場面でどのような対応をするかをわかりやすく書きましよう。

第三段落では、第二段落で述べたことについての理由を書きます。

自分がしようと思っていること（行動）の理由ですから、なぜその行動を取った方が良いと思うのか、自分の気持ちを盛りこんで答えましょう。

※以下のポイントを中心に見ます。

- ① 「消極的不正」とはどのようなものか、という筆者の考えがまとめられているか
- ② 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか
- ③ 「消極的不正」への対応について自分の取ろうと思う行動が書かれているか
- ④ 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか
- ⑤ 第二段落について
- ⑥ 第二段落で述べたことについての理由が書かれているか
- ⑦ 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか
- ⑧ 全体について
- ⑨ 段落が問題の指示に従って分けられているか
- ⑩ 答案用紙の使い方が正しいか
- ⑪ 誤字・脱字・送り仮名、仮名遣いの誤りがないか
- ⑫ 字数制限が守られているか